

## 平成29年度 ハイジ保育園 保育園自己評価

保育所保育指針において、保育士等と保育所の自己評価並びにその公表が努力義務として示されています。このことを踏まえ、ハイジ保育園では保育士等の自己評価並びに園評価を行うことで保育の質の向上、保育園としての機能・役割を十分に果たせるよう日々の保育に生かしたいと考えております

### <評価方法>

普段の保育を振り返りながら、次の各項目について、あなた自身、できていると思うか、4段階で自己評価する。

評価……次の基準によって評価欄に4・3・2・1と記入する。

【4:できている 3:ほぼできている 2:あまりできていない 1:ほとんどできていない】

### 1、保育の理念・方針・目標

| 内 容   | 評価 | 意見・改善策   |
|---|----|--|
| 1 園の保育理念・保育方針・保育目標を理解している                           | 3  | ○保育方針・保育目標についてほぼ出来ているという結果がでた。保育目標に基づき、各クラスの年間指導計画、月間指導計画、週間指導計画を作成し職員全体で検討会を重ね、共通理解している。また、毎月、毎週の反省、評価を実施し、個人面談や保護者懇談会で子ども一人ひとりの実態に合わせ、指導計画の修正を行っているが更に充実させていきたい。 |
| 2 保育所保育指針に基づいて援助・支援を行っているか                          | 4  |  |
| 3 年間指導計画は、保育指針・保育課程・行事計画・健康・安全計画幼児の実態等をもとに考え作成しているか | 4  |  |
| 4 幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間の環境構成をしているか                 | 4  |  |
| 5 自分の保育と計画の評価・反省(振り返り)を行うようにしているか                   | 4  |  |

### 2、保育士としての資質

|  |   |   |
|--|---|---|
| 6 相手に対して正対し挨拶ができる。また電話の用件は間違いないようメモに残し確認や伝達を行っているか     | 4 | ○全体的に社会人としての基本的なマナーは身に付いてきている。報告・連絡・相談を徹底してきたので、職員間のコミュニケーションがスムーズに取れるようになってきた。新人保育士にもベテラン保育士から指導していけるような体制や雰囲気づくりを作っていく。 |
| 7 言葉遣いに気をつけ、常に笑顔で心がけてるか                                | 4 |   |
| 8 子どもの活動に即対応できる服装で保育するよう心がけていますか                       | 4 |   |
| 9 規則正しい生活を送る。また体調不良のときは速やかに通院する。さらに予防接種を受けるなど予防に努めているか | 4 |   |
| 10 職務上知り得たプライバシーに関する情報などの守秘を守っているか                     | 4 |   |
| 11 保育士という職種や園の信用をなくす行為、発言をしない                          | 4 |   |
| 12 子どもの事やクラスの出来事等で必要な事は、園長や上司に報告・連絡・相談をしているか           | 4 |   |

### 3、養護(生命の維持)

|   |   |   |
|---|---|---|
| 13 各部屋の採光、温度、湿度、音、換気に配慮している。単に一定の温度に保つだけでなく、夏は外気温との差を5℃程度に保つなどして、子ども自身の環境順応性を失わせないようにしているか                                  | 4 | ○子どもの生命の維持に関する項目なので特に重要である事から、確認するためのチェック表を徹底しているが、職員間でも共通認識の元、継続していく。<br>・子どもの健康情報に関しては保育士、看護師、保護者と連携を取りながら個別記録を作成し、職員が情報共有し、対応できるようにする。 |
| 14 登園している子どもに、あいさつをしながら、視診・触診をして健康状態を確認しているか  | 4 |   |
| 15 保護者から健康状態などの申し出を受けるなど、子どもの健康情報を共有し、アレルギー、熱性痙攣、脱臼癖、ぜんそくの有無などの既往症について、すべての直接処遇職員に対して周知するとともに、その発症時の対応についても保護者と話し合いがなされているか | 4 |   |
| 16 活動後、休息が必要な子どもには、ゆっくり休ませるような配慮をしているか  | 4 |   |

#### 4、教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)

|    |  |   |  |
|----|--|---|--|
| 17 | 衣服の着脱にあたっては、自分でしようとする気持ちを大切に<br>し、励ます、ほめるなどして、着脱への意欲が持てるよう必要<br>な援助を行っているか | 4 | ○健康<br>衣服の着脱、食事、排泄など基本的な生活に<br>関する事に関しては個々の発達や成長に違<br>いがあることを把握しながら焦らずに進めてき<br>た。励ましながら一人でできるようにしていくた<br>めの工夫や保育技術を保育士間で情報共有し<br>ている。            |
| 18 | トイレでの紙の使い方などを具体的に知らせ、一人でできるよ<br>うに指導しているか                                  | 4 |  |
| 19 | 幼児をほめたり、励ましたり、目標を持たせるような言葉がけ<br>をしているか                                     | 4 |  |
| 20 | 意欲的に人と関わり、ルールを守って活動する心地よさを味わ<br>わせる工夫をしていますか                               | 4 |  |
| 21 | 自己の意見を主張したり、相手の意見を受け入れたり、譲り合<br>うことを身に付ける援助ができるか                           | 4 |  |
| 22 | 身近な動植物に親しみ、感謝の気持ちや生命尊重の心、自然<br>への畏敬の念を育てる配慮をしていますか                         | 3 |  |
| 23 | 季節により自然や生活に変化があることを知らせることができ<br>るか   | 4 |  |
| 24 | 身近な事物(事象、器具、数、時刻、前後左右等など)に関心<br>を持たせる工夫をしているか                              | 3 |  |
| 25 | 大人の仕事の意味が分かり、進んで手伝いをしようとする方向<br>に援助できるか                                    | 4 |  |
| 26 | 保育士自身が豊かで美しい言葉を使用し、思いを込めて会話<br>するように心がけ、人の話を聞く態度を身に付けさせることが<br>できるか        | 4 |  |
| 27 | 子どもの伝えたい気持ちを言葉だけでなく、身振りや表情、仕<br>草などでも理解し応答することを大切にしていますか                   | 4 |  |
| 28 | 子どもが自分の話を十分に聞いてもらった、伝わったという楽<br>しさと満足感が持てるように配慮しているか                       | 4 |  |
| 29 | 基本的な生活習慣に基づいたあいさつなど、日常生活に必要な<br>言葉を丁寧に使うことを心がけていますか                        | 4 |  |
| 30 | 子どもたちの興味や関心に沿った絵本や物語を用意できるか  | 3 |  |
| 31 | 感情豊かな言葉で保育士等の思いを伝え、子ども自身の模倣<br>や発言を促すように配慮しているか                            | 4 |  |
| 32 | 日々の保育の中で感動や発見ができるよう、変化に富む保育<br>内容に配慮しているか                                  | 3 |  |
| 33 | 行事や体験を通して感動したり、発見したりする場を設定し、<br>その後の表現につながる配慮をしているか                        | 3 |  |
| 34 | なぜ? どうして? の疑問に真摯にこたえ、分かりやすく説明<br>したり、分からなければ一緒に調べたりするよう工夫している<br>か         | 3 |  |
| 35 | 様々な素材や用具に親しみ、工夫して創作活動を楽しめるよう<br>環境を設定しているか                                 | 3 |  |
| 36 | 音楽を聴いたり、歌を歌ったり踊ったりする機会をつくっている<br>か   | 4 | ○環境<br>子どもが主体的に遊べる環境作りを課題とし、<br>各保育室の遊びコーナーを充実させるため遊<br>具や教具をバランスよく用意した。さらに子ども<br>達がすぐに手が届く場所へ設置し活動がス<br>ムーズにできるようにした。                           |
| 37 | 行事の中で発表する機会があり、成功体験を感じることができ<br>たり、自信がついたりするように配慮しているか                     | 3 |  |
| 38 | 子どもの個人差を理解し、能力・適正・興味に応じて楽しく取り<br>組めるように配慮しているか                             | 3 |  |
| 39 | 職員の間で発表する機会があり、成功体験を感じることができ<br>たり、自信がついたりするように配慮しているか                     | 3 |  |
| 30 | 子どもたちの興味や関心に沿った絵本や物語を用意できるか  | 3 | ○言葉<br>子どものつぶやきや関心等を見逃さないよう<br>に常に意識した。子どもの個性を把握しながら、<br>その子が成長できるように具体的な働きかけを<br>心がけた。保育士は自らの言葉使いを振り返<br>り、正しい・美しい言葉使いを意識して使えるよ<br>うに日々気を配っている。 |
| 31 | 感情豊かな言葉で保育士等の思いを伝え、子ども自身の模倣<br>や発言を促すように配慮しているか                            | 4 |  |
| 32 | 日々の保育の中で感動や発見ができるよう、変化に富む保育<br>内容に配慮しているか                                  | 3 |  |
| 33 | 行事や体験を通して感動したり、発見したりする場を設定し、<br>その後の表現につながる配慮をしているか                        | 3 |  |
| 34 | なぜ? どうして? の疑問に真摯にこたえ、分かりやすく説明<br>したり、分からなければ一緒に調べたりするよう工夫している<br>か         | 3 | ○表現<br>子どもが伸び伸びと表現できるように、保育活<br>動の中で子どもの発達を踏まえ、その子一人<br>ひとりに寄り添いながら楽しく表現できるよう工<br>夫している。発表会など大きな舞台を通じて、<br>表現する事の楽しみや喜びが味わえるようにし<br>た。           |
| 35 | 様々な素材や用具に親しみ、工夫して創作活動を楽しめるよう<br>環境を設定しているか                                 | 3 |  |
| 36 | 音楽を聴いたり、歌を歌ったり踊ったりする機会をつくっている<br>か   | 4 |  |
| 37 | 行事の中で発表する機会があり、成功体験を感じることができ<br>たり、自信がついたりするように配慮しているか                     | 3 |  |

#### 5、障がい児保育

|    |                                       |   |  |
|----|---------------------------------------|---|--|
| 39 | 職員の連携体制の下に援助を行うことができるか                | 4 | ○毎月、気になる子や障害を持つ子への対応<br>として、発達支援コンサルテーションを開催し、<br>専門家を呼んで対応の仕方や解決策を検討し<br>職員間で情報を共有している。 |
| 40 | 気になる子や障害を持つ子の特徴を理解し、適切に発達援助<br>ができるか  | 3 |  |
| 41 | 親の思いを受け止め、信頼関係と相互理解の下に育ち合う援<br>助ができるか | 3 |  |

#### 6、健康及び安全

|    |  |   |  |
|----|--|---|--|
| 42 | 検温は1日2回(午前・午後)を基本とし、必要に応じて随時<br>行っているか                       | 4 | ○検温、午睡チェックは、それぞれチェック表を<br>用いて確認・記入している。また、午睡は必ず<br>目視や胸に手を当てると徹底して行ってい<br>る。<br>○様々な研修に行き、感染症や防災について<br>の知識を広げ、園全体で共有している。<br>○災害・傷病訓練は毎月行い、訓練結果を話<br>し合い改善点など思索しながらマニュアルの改<br>善にも繋げている。 |
| 43 | 午睡の状態(呼吸、顔色、嘔吐、汗)を常に観察するとともに、<br>SIDS(乳幼児突然死候群)のチェックを記録しているか | 4 |  |
| 44 | 子どもの感染症やその他の疾病についての知識を持ち、必要<br>な援助ができるか                      | 4 |  |
| 45 | 非常事態時における職員の役割分担が明確に整備されてい<br>ることを理解しているか                    | 4 |  |
| 46 | 火災・地震・不審者侵入等において子どもの安全を確保し、避<br>難誘導が適切にできるか                  | 4 |  |
| 47 | 火災・地震・不審者侵入等において子どもの安全を確保し、避<br>難誘導が適切にできるか                  | 4 |  |

## 7、アレルギー

|    |   |   |  |
|----|---|---|--|
| 47 | 基本的なアレルギーの種類(食物・接触・薬)や特質について理解しているか                         | 4 | ○アレルギーを持つ子は年度初めに把握し、毎月の職務会においても全職員で確認している。<br>○除去食においては、誤食を防ぐ為様々な方法を考えながら、子どもが楽しく安全に食事できるようトリプルチェックを行っている。 |
| 48 | アレルギー除去については、保護者と保育所とで話し合いをし、連絡を密に摂り、その対応に相違がないように十分心がけているか | 4 |  |
| 49 | 除去食を行っている子どもに対しては、他児との差別感をもたせないよう配慮しているか                    | 4 |  |

## 8、食育

|    |   |   |   |
|----|---|---|---|
| 50 | 保育所は、食育の計画を作成し、日々の保育の中で子どもの「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培わなければならないことを理解していますか | 4 | ○毎月「食育デー」を設け、遊びの中で食育の取り組みを行った。各クラス、ビデオ撮影をし問題点や改善点、良いところなどを全体で検討した。<br>○野菜栽培、収穫、調理体験を行い、食について身近に感じ考えるきっかけ作りができた。 |
| 51 | 体と食物の関係、栄養素について基礎知識を持っていますか   | 3 |   |
| 52 | 食が人間の生活と健康に深い関わりがあることを大切にしていますか                                     | 4 |   |
| 53 | 栽培やその他の方法を通じ、食べ物への興味を持たせる取り組みをしていますか                                | 3 |   |

## 9、虐待

|    |                                      |   |  |
|----|--------------------------------------|---|--|
| 54 | 子どもの心が健康に育つため、安心感のある環境づくりに努めていますか    | 4 | ○朝の受け入れの時に子どもを良く観察し、一人ひとりの変化に気づけるようにし、変化がある場合はすぐに職員間で連携をとり話し合いを行い共通理解を図り、対応について検討している。 |
| 55 | 登園時や保育活動中のあらゆる機会において、虐待の早期発見に努めていますか | 4 |  |
| 56 | 虐待の情報を速やかに園長に報告する体制が整い、園内職員で共有しているか  | 4 |  |

## 10、地域・家庭支援

|    |  |   |  |
|----|--|---|--|
| 57 | クラスの子どもの様子・保育の内容・保育のポイントなどをクラス便りなどで知らせているか                             | 4 | ○クラス便りは毎月発行し、クラスでの様子や保護者の声などを載せて内容をわかりやすくしている。<br>○年に2回、個人面談を行い悩みや相談等を一緒に話し合い、解決できるように対応している。○市、地域の行事等は積極的に参加しているが、地域の文化等に関しては十分取り組んでいない |
| 58 | 家庭環境、育児環境を把握して、子育て環境へのアドバイスができる  | 3 |  |
| 59 | 個々の子どもの様子を直接話したり、連絡帳を使って伝えることができるか                                     | 4 |  |
| 60 | 保護者から様々な意見・要望・相談等については、真摯に対応し、安易に受けたり、断ったり、無視したりしないで園長や上司等に報告や相談をしているか | 4 |  |
| 61 | 子どもの生活や発達の連続性を踏まえ、保幼小連携の大切さを理解しているか                                    | 4 |  |
| 62 | 地域の行事に積極的に参加し地域の文化や生活に触れているか   | 3 |  |

## 11、経営・組織

|    |   |   |  |
|----|---|---|--|
| 63 | 職務内容が明確で協働できる体制になっているか                        | 4 | ○各クラスにベテラン保育士を配置し、新任保育士のサポートや指導を行う事で保育技術の安定化と保育士間のコミュニケーションがとり易くなった。<br>○リーダー、ミドルリーダーとしての業務を理解し、職員間の連携、働きやすい環境作りを行いたい。 |
| 64 | 係りやしごとの分担・割り当ては適切か                            | 3 |  |
| 65 | 各種会議を適切かつ効率的に進めているか                           | 3 |  |
| 66 | 職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく施設の運営に関わっているか | 3 |  |
| 67 | 自分の職務に積極的に取り組むことができるか                         | 4 | ○職員間の連携が密に取れたので協力体制が上手くできた反面、連携不足と感じる職員もいた。全職員が気持ちよく働けるよう協力体制を築いていきたい。   |
| 68 | 職員間で連絡体制が確立されているか                             | 4 |  |
| 69 | 職員間で協調性や信頼感があるか                               | 4 | ○お互いの個性を認め合いながら、話し合いを重ねたり職員交流を深めることで、協調性、信頼を深め、職務に対しての考え方を共有し、積極的に業務に取り組んできた。  |
| 70 | 職務遂行に積極的で、担当以外の業務にも進んで取り組むことができるか             | 4 |  |
| 71 | 上司の指示や定められた規則、手続きを守ることができるか                   | 4 |  |

## 12、研修

|                                       |   |  |
|---------------------------------------|---|--|
| 72 園内研修の計画運営は適切か                      | 4 | <p>○今年度はDVDを活用して「食育」の課題を研修として位置づけ取り組んだ。普段の保育活動を全体で検討する事で改善点が即保育活動に活かすことが出来た。</p> <p>○様々な園外研修に参加し、職務会等で報告、会議、実践を行い、保育士のスキルアップを目指した。</p> |
| 73 園内研修の成果を日常の保育に生かし、乳幼児の育ちに反映させているか。 | 4 |  |
| 74 園外の各種研究会、研修会、講習会への参加体制の充実を図っているか   | 4 |  |
| 75 園外の各種研究会、研修会、講習会での内容を園内に還元しているか    | 4 |  |

### <保育園評価について>

○「子どもが主体的に遊べる環境づくり」を重点課題とし、各保育室の遊びのコーナーを充実させるため、遊具や教具をバランスよく用意し子ども達がすぐに手が届く場所へ配置した。また、行事や日々の保育活動の中で企画や進行、レイアウトなどを子ども同士で話し合い実践させた。そのことを繰り返し体験していくことで一人ひとりが主体的に活動に参加し達成感を味わうことができた。年長児がスムーズに就学できるよう、保幼小連携連絡会には積極的に参加し、就学時の姿(健康な心と体、自立心、協働性、社会生活との関わり、思考力の芽生え、自然との関わり、数量・図形、文字などへの関心、言葉による伝え合い、豊かな感性と表現)を意識した保育を進めた。

○毎月「食育デー」を設定し、遊びの中で発達に沿った食育への取り組みを行う事で、食育への関心を広げることができた。未満児クラスでも実際に野菜に触れる事や、ネギの栽培や弁当づくり等の活動を体験する事で、五感を通して感触を味わい、食材の認知へとつなげる事ができた。以上児では、季節の野菜を自分たちで栽培し、収穫した後にクッキングやバイキングを行い、いつもと違う雰囲気、皆で食べる喜びを味わうことが出来た。また、この食育活動を職員研修に位置づけ、各クラスのビデオ撮影を行いその様子を見ながら、良いところや課題を話し合った。子ども達が「できる！」にはどういった支援や配慮が必要かを検討し、日々の保育に活かすことができた。

○園の行事に関して、それぞれに行事のリーダーを置き、「子どもの発達段階にあっていること」「子どもが主体的に表現・活動出来ること」を課題解決できる内容にするためにはどうするかを十分に話し合った。リーダー保育士を中心に職員が一丸となって取り組み、互いに協力しながら進める事ができた。

○毎月の園だよりやクラス便りで保育計画を知らせ、家庭でも一緒に取り組めるように連携をとりながら一貫した保育を進められるようにした。また、行事や保育参観等を通して、園の保育目標や保育内容を知らせるよう努めた。

○地域の行事等には積極的に参加し、消防や警察等地域の関係機関とも連携して子ども達の安全教育に努めた。また、保幼小連携として、幼稚園交流会や連絡交換会等を行い、就学前のあるべき姿を共通理解し、子ども達が安心してスムーズに就学できるように情報共有した。